

## みやこ町



## 地域の概要

福岡県の東部に位置し、水稻を中心に、麦、大豆、果樹、野菜などを生産、特に犀川地区の「ホオズキ」「白ネギ」や「帆柱茶(ほばしらちゃ)」、豊津地区の「イチゴ」や「イチジク」、勝山地区の「勝山米(しょうざんまい)」は有名で町内外から購入に訪れる方も多い。

## 遊休化状態



## 草刈・耕起後



## 大豆生育中

最適化推進委員の活躍で  
遊休農地を復旧、担い手へ

- 平成30年度
  - ・農地所有者と協議
  - ・作業受託者、担い手探索
- 令和元年度
  - ・作業(草刈・耕起)実施
  - ・担い手へ貸付、大豆作付1.1ha
- 地域住民から感謝の声
  - ・事故多発交差点が見通せるようになり、交通安全にも一役

## 行橋市



## 地域の概要

福岡県の東部に位置し、水稻を中心とした地域。果樹栽培が盛んで、イチジクの産地として有名。

## 遊休化



## 農業委員の活躍で受手農家作付けにこぎ着ける

- 平成30年度
- ・農地所有者と協議
- ・担い手探索
- ・草刈作業受託者探索

地域住民から感謝の声

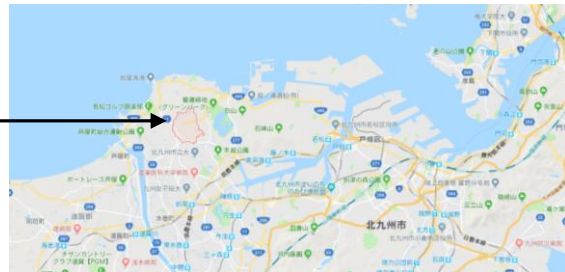
## 草刈後

## 耕起後





## 北九州市若松区蛭住地区



## 地域の概要

北九州市の西部に位置し、潮風キャベツの産地に隣接する水田地帯。基盤整備済み

## 地域の課題

「見える化」により集落内のスムーズな意思統一

平成28年

農地面積 25.5ha

北九州市若松地区35集落  
(567戸)にアンケート調査。

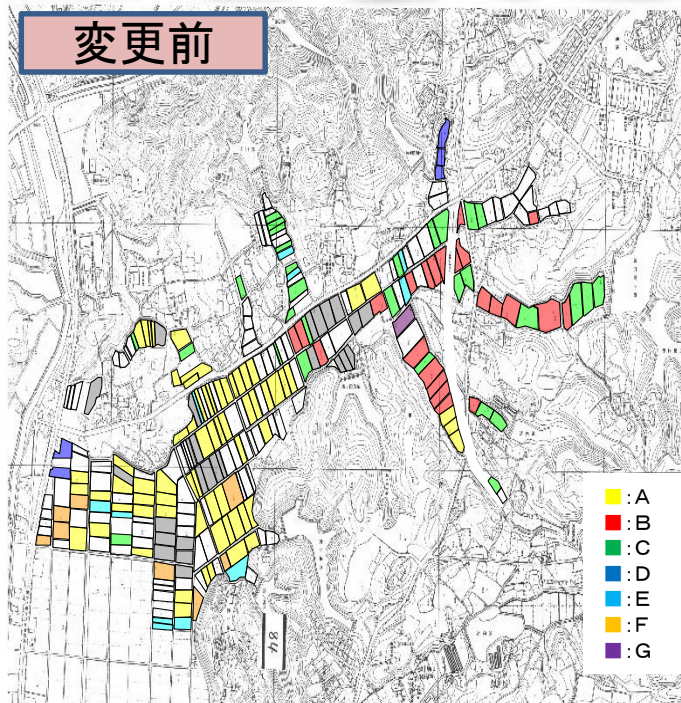
当地区が担い手が少なく、  
他の農家に任せたい意向が  
多いことから、重点課題化。

平成29年～

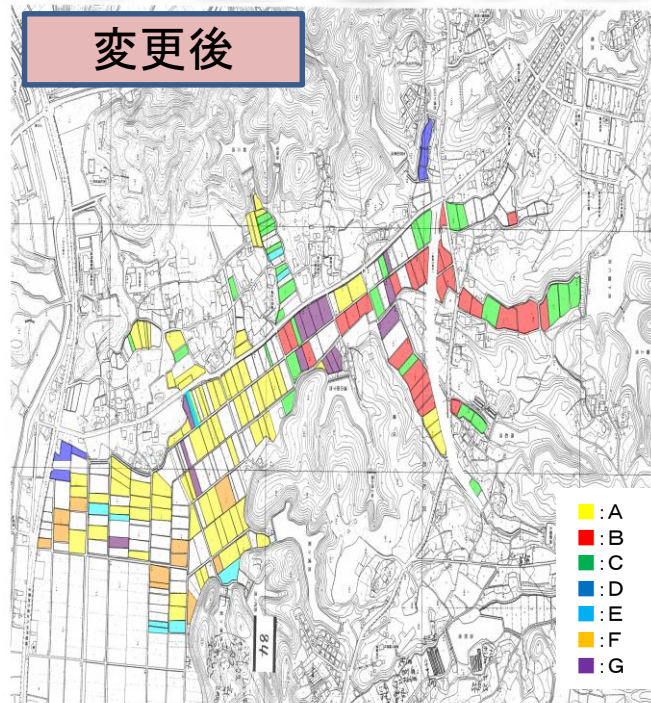
- ・農地所有者アンケート
- ・担い手との意見交換会
- ・農地マップの作成

13ha農地中間管理事業活用し、担い手7人(地区外6人)に農地集積。ブロッコリー団地化。

変更前



変更後



■ : A  
■ : B  
■ : C  
■ : D  
■ : E  
■ : F  
■ : G

■ : A  
■ : B  
■ : C  
■ : D  
■ : E  
■ : F  
■ : G

## 八女市大規模茶園集積



### 概要

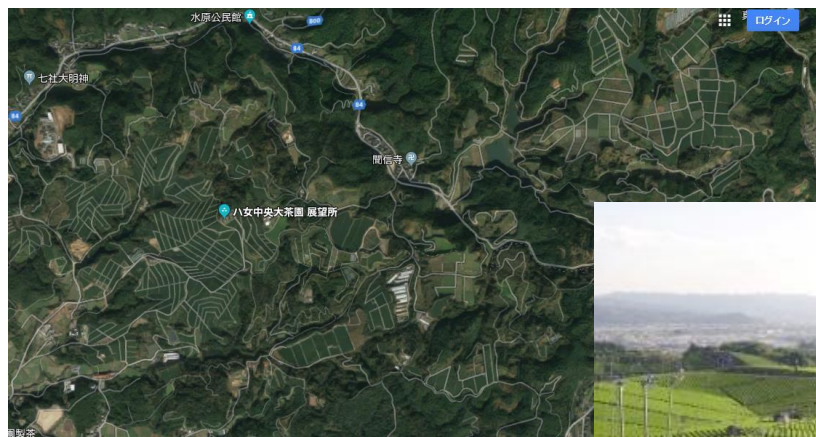
八女市の茶は、栽培面積が1,296ha(2016年度)で県内の84%を占め、全国的にも高級茶の産地として名を馳せている。

ゆるやかな傾斜の丘陵地に広がる中央大茶園(約70ha)は、福岡を代表する八女茶の一大生産地です。ここは、1969年から1973年にかけて「県営パイロット事業」として103haの山林を開発して作られた茶畑で、その雄大な景色は広く知られるところとなりました。頂上には展望所が設けられ、晴れた日には有明海や島原半島を望むことができます。新茶の季節には、新茶の無料接待や販売が行われます。

### 中間管理事業の活用で茶園の集積

○中央大茶園を中心とし、75haを集積

○地域集積協力金を活用して、灌水施設のリニューアルを予定





## 八女市農地利用最適化 推進委員が茶園集積



八女市

### 概況

八女市は福岡県の南部に位置し県内で有数の農業地帯である。特にお茶は、面積が1,296ha(2016年度)で県内の84%を占め、全国的にも高級茶の産地として名を馳せている。

### 取組の特徴

#### ○地区内の取りまとめを農業委員、農地利用最適化推進委員が担う

○地区内の関係機関として、行政区が3、中山間等直接支払交付金集落協定地域が3、製茶工場が12あり、既存の組織では取りまとめできないので、市から農業委員、農地利用最適化推進委員に取りまとめの依頼があり了承。

#### ○地域集積協力金への取組み

- ・団地の面積が10.9haで実施が可能。
- ・協力金を防霜ファン、灌水施設の補修費用に充てる

### 中間管理事業の活用で 茶園の集積

地元説明会の案内は、農業委員等で地区割りを行い個別に対応。

#### ○事前資料の準備(黒木支所へ依頼)

- ・現地図面作成
- ・事業説明資料作成
- ・農用地貸付申出書、農用地借入申出書

○説明会の進行は、農業委員等が行い実施に向け誘導

○すでに、利用権設定をしている貸し手へは、現在借りている担い手が個別に説明。

○経営転換協力金については、借手から説明。



## 農業法人(株)峯菜園



築上町

### 経営概況

経営規模 27ha

水稻13ha、WCS13ha、麦9ha、ブロッコリー7ha、レタス7ha  
スイートコーン1.5ha、ユリ5a、ホオズキ3a

### 経営の特徴

○基盤整備を契機に農業へ本格参入！

きっかけは、講演で聴いた「これからの時代、  
土木が農業に参入していくべき」との言葉！

○常時雇用のうち、2名は農業大学校と大学の  
卒業者

○建設業時の従業員をパートで雇用

27年度～

農地中間管理事業を活用し  
全ての農地を借入！

○築上町東八田地区24ha農地  
うち15ha(約6割)を集積



野菜出荷調製作業

### < 担い手からの意見 >

- ① 基盤整備事業で区画を拡大したことで、法人化に取り組み、農業に参入できた。
- ② 農道の整備により農業機械の長寿命化につながっている。
- ③ パートが高齢化しており(70歳前後)、新たな労働力の確保を図りたい。
- ④ 若手の職員には、土木の技術についても教えて行こうと考えている。
- ⑤ 施設維持管理の電力を再生可能エネルギー(風力など)で賄いたい。